



概要

この章は、次の項で構成されています。

- [VM ゲストのカスタマイズ オプション, 1 ページ](#)
- [前提条件, 1 ページ](#)
- [エスケープ文字, 2 ページ](#)
- [ステータス コード, 3 ページ](#)

VM ゲストのカスタマイズ オプション

VM のゲストオペレーティングシステムをカスタマイズするため、Cisco UCS Director には、以下のオプションが用意されています。

- Cisco UCS Director タスク ライブラリの VIX スクリプトの実行タスクと VM コマンドの実行タスクは、VM での VIX スクリプトやコマンドの実行をサポートします。
- userAPIExecuteVIXScript API と EXECUTE_VIX_SCRIPT API は、VM での VIX スクリプトの実行をサポートします。

前提条件

Cisco UCS Director によるゲストオペレーティングシステムのカスタマイズを検討する前に、以下の前提条件をお読みください。

- vCenter で最新の VMware ツールをインストールする。
- ゲストオペレーティングシステムがインストールされた VM の電源をオンにする。
- VMware の最新のツールがゲスト VM にインストールされ、動作していることを確認する。
- ゲスト VM の管理者クレデンシャルを取得する。
- UCS Director から ESX/ESXi ホストに到達可能であることを確認する。

エスケープ文字

エスケープシーケンスは、バックスラッシュ (\) に文字を続けます。エスケープ文字は、新しい行やタブの挿入などの動作を指定するために使用されます。次の表に、Java エスケープシーケンスの一覧を示します。

エスケープシーケンス	挿入
\t	タブ
\b	Back Space
\n	改行
\r	行頭復帰 (キャリッジリターン)
\f	改ページ
\'	一重引用符
\"	二重引用符
\\	バックスラッシュ
\\$	ドル変数
\	あるコマンドの出力を別のコマンドにテキストで送るパイプ
\+	プラス文字
\^	キャレット文字
\\&	アンパサンド文字

コマンド内にエスケープシーケンスが出現すると、それに応じてコンパイラが解釈します。たとえば、引用符に囲まれた内側で引用符を使用する場合は、内側の引用符にエスケープシーケンス (\") を使用します。SQL instance name is "ucsd_instance1" と印字する場合、次のようにコマンドを入力します。

```
echo "SQL instance name is \"ucsd_instance1\""
```

コマンドにバックスラッシュ (\) が含まれている場合は、もう1つの 「\」 文字をプレフィックスとして 「\\」 文字に追加しないと、正しいコマンドが VM に送信されません。コマンドに UCSD 変数 ({variable}) が含まれている場合は、2 つではなく、4 つのバックスラッシュ 「\\\\」 を使用します。

次に、例を示します。

```
C:\WINDOWS\system32\cmd.exe mkdir C:\\test1 // two backslashes

C:\\\\sqlinstall\\\\install.cmd ${SQL_INSTANCE_NAME} // four backslashes,
are used in the command // as UCS Director variables
```

ステータスコード

次の表に、VIX ステータスコードの一部を紹介します。

コード (Code)	説明
[0]	コマンドが正常に実行された
1	不明なエラー
127	例外がスローされた - コマンドが見つからない
9009	例外がスローされた - 動作可能なプログラムまたはコマンドとして認識されない
3014	ホストオペレーティングシステムでの権限が不十分
3015	ゲストオペレーティングシステムでの認証失敗または不十分な権限

VIX ステータスコードの一覧については、VMware サポート サイトにある VIX エラーコードのドキュメンテーションを参照してください。

コマンドの実行後、VIX スクリプトによって正常にコマンドが実行されたかどうかを、Cisco UCS Director ワークフローのログで確認できます。実行に成功した場合、ワークフローのログに 0 というステータスコードが表示されます。タスクに失敗した場合や不適切なコマンドを渡した場合、VIX スクリプトによって 0 以外のステータスコードが表示されます。



(注) Cisco UCS Director ワークフローのログでは、EXIT_STATUS_CODE = 0 および EXIT_STATUS_CODE = 1 である場合、ERROR_STATUS_MESSAGE が空になります。ただし、その他の Exit ステータスコードには、適切なエラーメッセージが表示されます。

VM でのタスク完了後には、VM でもステータスコードも確認できます。Linux VM の場合は、コマンド `echo $?` を入力することによってステータスコードを確認します。Windows VM の場合は、`echo %ERRORLEVEL%` を入力することによってステータスコードを確認します。

